Partner's View

チイキノマナザシ

JAわかやま

和歌山大学とJAわかやまの連携の歩み

JA直売所「愛菜てまりっこ」での
アンケート調査（2016年2月）

2015年度より和歌山大学とJAの共同研究『市民農園の新たな展開方式による都市農業再生方策に関する研究』が始まりました。主な研究内容は、東京都練馬区で始まっていた農業体験農園の仕組みを地方都市である和歌山市でも実現できないかというものでありました。当初はJA内でも、「大都市、東京では実現できても、安価で農地が借りられる和歌山市では、実現不可能であろう」といった雰囲気が漂っていました。そんな中で、実際の声を聞きたいとJAの農産物直売所である「愛菜てまりっこ」でのアンケート調査や、東京都練馬区での利用者、園主アンケート等を続けていきました。また、練馬区から体験農園の園主を招き、開園者向けの講演会を、大学やJAで開催しました。そのような活動を通じて、組合員農家から、体験農園を開園したいとの要望が出てきました。折よく、和歌山市鳴神にある宇都宮病院の敷地内の農地を有効に使えないかとの相談もあり、2016年にその病院の敷地内で、和歌山県初の農業体験農園が開園することとなりました。

その一園の開園をきっかけに、2017年はさらに和歌山市宮前地区と梅原地区に二園が開園しました。この三園で、トータル70区画、100人を超える市内の利用者が生まれました。利用者はホームページや組合員への広報誌等で募りました。この成果を見たJAは、和歌山大学との連携の手ごたえを実感することとなりました。

2018年からはさらに、実践だけでなく学びも必要とのことから、JA職員が大学の講義を大学生と共に受講する寄附講義『食と農のこれからを考える』を、10月～2月に15回実施することとなりました。この講義で、毎年10人程度のJA職員や組合員、行政関係者などが学びの場を得ることとなりました。

さらに、寄附講義を受けた職員から、自主的にゼミ形式で学びたいとの声が起こり、和歌山大学食農総合研究教育センターの岸上教授の協力を得て、2019年よりJA内でゼミを開催する運びとなりました。そして、そこでの学びの成果を次年度の寄附講義で発表することも実現し、まさに、受動的な学びから能動的な学びの場となりました。

また、寄附講義の受講生も、職員だけなく、青年部、女性会まで広げ参加の輪が大きくなってきています。最終講義では、農業青年と女性、学生、坂東組合長も登壇した「農業者たちと語る食と農のこれから」も実施しています。

寄附講義（2019年10月）

寄附講義プラス（2020年3月）

2021年8月には、大学とJA、和歌山市が連携する「都市農業振興のための産官学包括連携協定」を締結し、3者が力を合わせ和歌山市の農業振興を図ることとなりました。

さらに、2022年度からは、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹に価値共創研究員制度を利用して、JA職員を研究員として派遣し、食と農に関する研究を深める予定です。

産官学包括連携協定（2021年8月）

個人のつながりから組織としての連携へ（JAわかやま営農生活部　池田信義）

和歌山大学とJA職員である私との関わりは、21世紀を目前にした1990年代後半から始まりました。当時JAの職員達が、日ごろからいろいろな話をするなかで、今のJA内部の研修や知識だけで21世紀を乗り越えられるのかとの疑問が起こり、和歌山大学で開催していた社会人向け講座「土曜講座」を受講しました。「土曜講座」は当時の和歌山大学生涯学習教育研究センターが、社会人や大学生、高校生に門戸を開き、各専門分野を大学教授らがわかりやすく話をするという講座でした。私はこの講座に参加することによって、和歌山大学にはいろいろな学びの場があることを知りました。この講座をきっかけに、生涯学習研究会（通称、生研会）やマナビィスト支援セミナーなどに参加していき、学びの場を広めていきました。

マナビィスト支援セミナー
（2017年3月）

コンソーシアム「わかやま学」
フォーラム（2013年11月）

その後、学ぶだけでなく、学んだことを発表する場があることを知り、私は高等教育機関コンソーシアム和歌山の企画「わかやま学講座」に応募して、シンポジウムを企画するようになりました。2013年から、「笑いの文化講座」「まちなか再生に対する農業の役割と可能性について」「子ども食堂は地域に何を残すか」等いろいろな地域課題を解決するフォーラムを企画して、その後、フォーラムで知り合った方々とその実践に取り組むようになりました。

これらのフォーラムへの参加を通じて、和歌山大学との関わりがさらに強まりました。そんな私の活動を見たJA常勤役員からも、自主的に連携するだけでなく、今後はJAとして和歌山大学と連携してはどうかとの話が持ち上がりました。また、かねてより指導いただいていた藤田武弘教授（当時の観光学部長）からも、大学との連携強化のお話がありました。

このように、始めはJA職員の気づきから始まった小さな学びの一歩でありましたが、今では和歌山大学の地域連携力と相まって、多方面に進化しています。今後も現状に満足することなく、大学も、JAも「これでいいのか」と常に問い続け更なる峰を目指していきたいと思っています。

JAわかやま